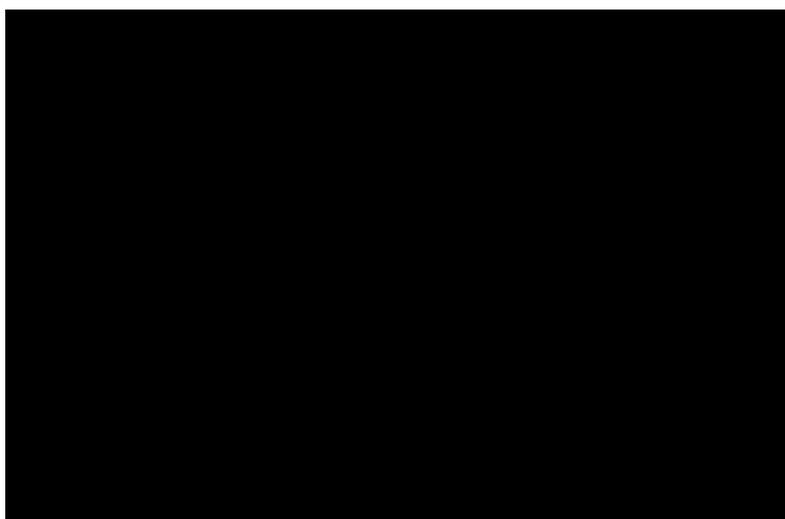


平成 29 年度
名古屋市立大学 男女共同参画報告書



名古屋市立大学
男女共同参画推進センター

卷頭言

目次

第 1

第 5 節 公立大学法人名古屋市立大学次世代育成支援行動計画（第四期）

1 趣旨

第6節 公立大学法人名古屋市立大学 行動計画

1 趣旨

女性活躍推進法に基づき、より働きやすい職場において、多くの女性が活躍できるよう労働環境の整備を行うため、次のように行動計画を策定する。

2 計画期間

平成28年4月1日から平成30年3月31日まで

3 本学の課題

- (1) 管理職に占める女性の割合が低い。
- (2) 教員において上位職(教授・准教授)に占める女性の割合が低い。

4 目標と取組内容・実施時期

目標1 女性管理職を平成27年度に比較して、1名以上増加させる。

【取組内容】

平成28年4月～ ・対象となる男女職員に対して、キャリア支援に関する研修会等を開催する。

平成28年8月～ ・対象となる男女職員に対して、係長昇任選考試験への受験勧奨を行う。

目標2 教員における女性上位職の人数を、平成27年度に比較して2名以上増加させる。

【取組内容】

平成28年4月～ ・対象となる男女職員に対して、キャリア支援に関する研修会等を開催する。

男女共同参画推進センター・医学部附属病院共催 特別講演会

「モチベーションでバランスアップ」

日時 平成 29 年 11 月 1 日（水） 16 時 30 分～17 時 30 分

研究における男女共同参画

研究支援員制度

・第5回男女共同参画奨励賞審査委員会

明石恵子委員長（学長補佐）、小嶋雅代委員（医学研究科准教授）、築地仁

その他

委員を2年間勤めてみて

人間文化研究科 宮下さおり

私が所属する芸術工学部情報環境デザイン学科における入学者の男女比は近年、女性が男性を上回る傾向が見られる。「芸術」と頭につくものあくまで「工学部」であり、かつては男性が多い状態で推移してきた。正確なデータが目の前にあるわけではないが、感覚的にはここ4~5年の間に女性が増えてきたという感じがある。こうした受験動向にも、「意識改革」の一端を見てとることができそうだ。

より一層、身近なところに目を移すと、私のゼミに所属する学生の男女比に至っては、昨今ほぼ100%女性である。私が教えているのは「デザイン」であるが、その一領域として「ユーザーインターフェイスデザイン」がある。これは広義には「人工物の使い方のデザ

題もあるので、所帯は大きいですが課題を整理し、課題解決に取り組んでいくことが必要
と思っています。

また、去年は、男女共同参画に関する教員研修の担当として、病院共催の研修「モチベ
ーションでバランスアップ」を企画しました。講師に JTB コミュニケーションデザインワ
ーク・モチベーション研究所所長の菊入みゆき先生をお呼びし、老若男女を問わず共通す
る心身のバランスアップについてその秘訣を教えてくださいました。一人ひとりが自分の環境
(家庭、大学、職場等)や過去の自分を振り返り、明日からのそれぞれへの向き合い方
を考える、こうした時間が持てることが大事なのではないでしょうか。誰もが大事な今を生
きていける。大学や病院そして家庭での日々を豊かにする取り組みを、今後も男女共同参
画推進センターから発信していけたらと思っています。

ワークとライフのはざままで

事務局総務課人事係長 川口 輝佳

ズいか す類解 9 月、 シカ » 裁calカ ず 観い 僉でち 、 、 K

第4章 資料

公立大学法人名古屋市立大学男女共同参画推進センター規程

(設置)

第1条 公立大学法人名古屋市立大学(以下「法人」という。)に、男女共同参画及び女性研究者支援を総合的に推進するとともに、次

